

# 短梢無核栽培ぶどうの新梢管理 資料

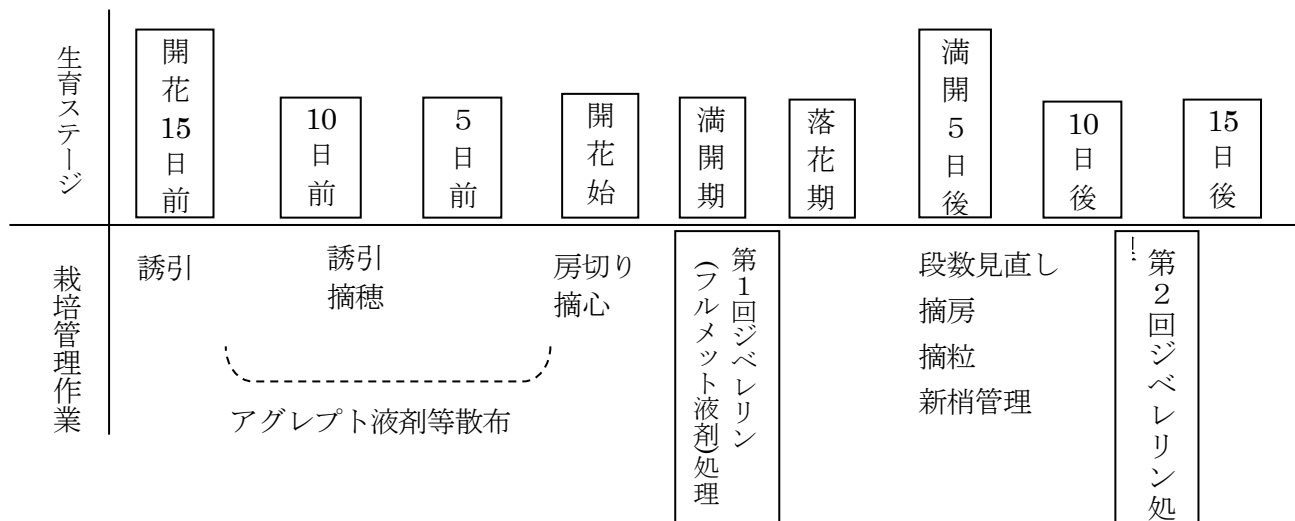
令和元年5月31日 長野農業改良普及センター

## 1 栽培の流れ

樹種	品種名	区分	発芽	展葉	開花	満開	落花
ブドウ	有核巨峰 (松代)	本年	4月24日	4月27日			
		平年	4月21日	—	6月3日	6月7日	6月10日
		前年	4月17日	4月20日	5月28日	6月1日	6月7日

開花期の目安（平年値）：無核巨峰（有核巨峰より2日ほど遅い）

- ・ナガノパープル（無核巨峰より1日ほど遅い）
- ・クイーンニーナ、ピオーネ（ナガノパープルより1～2日ほど遅い）
- ・シャインマスカット（クイーンニーナ、ピオーネより3日ほど遅い）



## 2 種なしぶどうの好適樹相

### (1) 望ましい新梢長

展葉7～8枚時 50cm 前後  
開花始期 80～100cm  
満開期 110cm

有核巨峰と比べ、強めの新梢を維持する  
(弱樹勢は粒肥大が劣る)

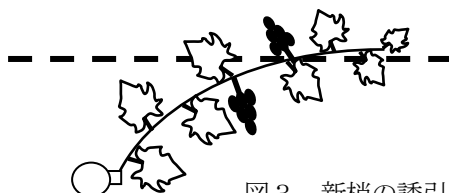
## 3 新梢管理

### (1) 新梢誘引のポイント：慌てない（ナガノパープルは発芽後1ヶ月頃から誘引を行う）

※ナガノパープルは他の品種に比べて作業適期が短いので、他品種より優先し、必ず適期に実施する。新梢の誘引を急ぐと折れやすいので、慌てずに適期に行う。

- ① 直立した新梢は基部（2～4節間）を稔枝してから誘引する。

ナガノパープルは必ず稔枝する（5月下旬～6月初旬）。稔枝から数日後以降に誘引。



房の形状を確認し、細長い方の花穂が棚下～横向きになるようにする。  
細長い花房の方が摘粒は楽である。

図3 新梢の誘引

- ② 誘引すると基部から折れやすい。誘引（棚付け）できても、数時間後に折れる場合もある。  
（曇天日または晴天時の昼前～午後が折れにくい）
- ③ 新梢長が 50～60cm 位になった頃から、主枝に直角に平行誘引する。  
できるだけ多くの新梢の誘引を同時に行う。主枝単位で新梢の誘引を終わらせるとよい。（部分的に誘引した場合、風が吹くと誘引した新梢に負荷がかかり折れる危険性が高い。途中で誘引作業をやめない。）
- ④ 芽座の基部側の新梢が弱い場合は立たせておき、先端側の新梢を棚付けする。夏場に伸長が旺盛になったら切除する（弱いまま残れば次年の剪定時に基部側まで切り戻すことが可能）。
- ⑤ 誘引して 20cm に 1 新梢になるようなら、不要な新梢は欠き取る。

### 3 無核処理（アグレプト液剤またはストマイ液剤 20 の散布）※散布時期が遅れないよう注意

- ① 満開予定日の 14 日前～開花始期にアグレプト液剤またはストマイ液剤 20 の 1000 倍液を 10 a 当たり 200～2500 散布する。処理回数は、いずれかの薬剤を 1 回。
- ② 房に直接薬液が付着しないと無核化効果はない。房がある程度大きくなり、垂れたのを確認してから散布する。
- ③ 短梢栽培では花房浸漬でも良い（ドリフト防止）。

この資料は令和元年 5 月 15 日現在の農薬登録状況をもとに作成しました。  
農薬の使用に当たっては、最新の登録内容を確認のうえ使用しましょう。